

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	山田洋子	所属	立命館大学衣笠総合研究機構
研究集会等名称	日本心理学会ナラティブと質的研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 25名 (うち認定心理士 1名) 非会員 77名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください) 集会の実施内容と成果</p> <p>1. 集会</p> <p>(1) 第一回研究会「人生と老いと震災のナラティブ」 2012年7月15日(日), 立命館大学(衣笠キャンパス)にて開催した。西成彦(立命館大学)が「老いとセクシュアリティ」, やまだようこ(立命館大学)が「震災や人生の障害をのりこえるナラティブ」, 錦織宏(京都大学)が「東日本大震災において被災地支援活動に向かった医師の動機」について発表を行い, 45名の参加者で活発な議論を行った。</p> <p>(2) 第二回研究会「いじめへのナラティブ・アプローチ」 2012年12月1日(土), 立命館大学(衣笠キャンパス)にて開催した。いじめの問題とその対策を巡って, 宮川正文と戸田有一(大阪教育大学)が対談形式で話題提供した後, 森岡正芳(神戸大学)がコメントと話題提供を行い, 30名の参加者で活発な議論を行った。</p> <p>2. 特別企画・連携企画による集会等 以下の研究集会を主催・共催で実施し, 有意義な議論を行った。</p> <p>(1) 「質的研究・文化心理学の交差点」(2012年12月24日(月), 立命館大学, 主催:立命館大学生存学研究センター)</p> <p>(2) 「質的研究における当事者性について考える」(2013年2月10日(日), 立命館大学, 主催:多様な「生」を描く質的研究会)</p> <p>(3) 日本発達心理学会第24回大会ラウンドテーブル『『いじめ』や『虐待』をいかに防ぐか』(2013年3月15日(金), 明治学院大学, 主催:ナラティブと質的研究会)</p> <p style="text-align: center;">将来計画</p> <p>現在, 研究会の会員数は100名を超え, 心理学のみならず, 医学, 看護学, 教育学, 哲学等, 様々なバックグラウンドを持ったメンバーがいる。今後はそのような多様性を活かしつつ, 領域横断的な研究会を企画し, 多声的な対話ができる場所を生成していく予定である。また, 活動の詳細については, 代表者の山田洋子のウェブサイト (http://www.ritsumei.ac.jp/~yyr12085/yyamada/ynarrative.htm) および, 研究会専用のメーリングリストでも引き続き積極的に情報発信をしていく。</p>		